



「健康長寿のまち はとやま」宣言

一人ひとりの「健康づくり」みんな元気で「健康長寿」

私たち鳩山町民は、いつまでも住み慣れた地域で健やかな生活を送るために必要な心と体の健康づくりに努め、さらなる健康寿命の延伸に繋げることを誓い、ここに「健康長寿のまち はとやま」を宣言します。

栄養

一人ひとりが正しい栄養バランスを知り、健全な食生活を実践することで生活習慣病予防に努めます。

運動

一人ひとりが身体活動の効果を知り、意識的に体を動かし運動習慣を身につけることで筋力の維持・増進に努めます。

社会参加

一人ひとりが主体的に社会参加し、全世代がつながりを持つことで共に支え合う地域づくりに努めます。



7月2日、地域包括ケアセンターの開所式典で、来場者全員で宣言しました。宣言文は、町が進めてきた健康づくりの取り組みの3本柱である「栄養」「運動」「社会参加」を盛り込み、町の健康づくりに関する計画の策定や推進を図る「はとやま健康向上委員会」、介護予防事業として健康教室を運営する「健康づくりサポーターの会」をはじめ、町ホームページにおいて広く町民から意見を募集し決定しました。



特集 新しい施設を活用しよう

①「鳩山町地域包括ケアセンター開所式典」には、約180人の方々が集まりました。②開所式典では、「健康長寿のまち はとやま」宣言も行われました。③7月5日、地域の交流スペースで「地域健康教室」が行われました。

“地域包括ケアセンター”のご案内

■デイサービスセンター

在宅中重度の要介護者を対象とした「療養通所介護」、医療・介護保険を使ってサービスを提供する「訪問看護」、ケアプランを作成する「居宅介護支援事業」、看護師による医療や在宅支援に関する相談、医療・介護に関わるボランティアの研修などを行います。

問合せ：彩西ナーシングケア ☎ 296-5605

■地域包括支援センター

主任ケアマネージャー、社会福祉士、保健師などが、高齢者の介護や健康、認知症に関することなどの相談に応じるほか、介護予防事業を実施します。



■地域の交流スペース

面積約600㎡の屋内空間で、体操教室などの介護予防事業や健康づくり事業、子どもや高齢者まで多世代が交流できる事業を開催するほか、町の健康診断や選挙の投票所、災害時の避難所としても活用できます。

また、午前9時～午後9時までの時間で、予約により一般の方が有料で使用できます。予約方法や使用料などの詳細は、広報6月号4ページをご覧ください。

問合せ：鳩山町地域包括ケアセンター（松ヶ丘4-1-4） ☎ 296-7700（土日、祝日を除く）

式典では、町民を代表して、「はとやま健康向上委員会」委員の方々のリードのもと、会場にいる方全員で「健康長寿のまち はとやま」を宣言しました。
行動を習慣化するのには難しいものですが、まずは自分なりの取り組みを「宣言」して、周囲に知らせることが、行動の後押しになります。
町内のイベント・教室等に積極的に参加しよう
今後町では、宣言記念イベントを

継続していき、今年度は9月30日に「K-1祭り」と町社会福祉協議会の「ふれあい広場」の共同開催、年明けに記念事業講演会を開催します。
また、町では、町民の皆さまがますます元気になれるよう、様々なイベントや集いの場をご用意しています。まずは、ご自身の関心、生活スタイルに合わせて、会場へ足を運んでみてはいかがでしょうか。
※地域包括ケアセンターで、9月に「さわやか健康教室」公開講座と認知症講演会を実施します。詳細は6ページをご覧ください。

へ向けオープン

一人ひとりが施設を「使い切ろう」

活力ある超高齢社会の実現のためには、そこに住み、携わる人が、「自分らしさ」とは何かを見つめることから始まります。子育て・孫育て、趣味に生きるなど、自分がしたいことを続けることが、健康づくりやまちづくりにつながります。そうした健康づくりや社会参加の場に町の施設を積極的に使い、施設をどう「使い切る」かが重要となります。

（記念講演会の内容を一部要約）



7月2日、福祉健康・多世代交流複合施設（旧松栄小学校用地）内に整備された「鳩山町地域包括ケアセンター」の開所式が行われ、会場には多くの方が集まりました。
式典では、関係者の祝辞や施設紹介、「健康長寿のまち はとやま」宣言、記念講演会が行われ、講演会後、施設の内覧会も行われました。

が、施設を活用し、そこで何をすることで、施設の価値が変わっていきます。式典後に行われた記念講演会では、講師の東京大学 高齢社会総合福祉研究機構の後藤純氏（写真左）も、「自分らしく、施設をどう使うのかを考えてほしい」と参加者に呼びかけていました。

住み慣れた町で、くらしを喜びたい。



▲マルシェ内は、多くの皆さんでいっぱい！ ▲はーとんと記念撮影

七夕飾りの願いとともにオープン



鳩山町コミュニティ・マルシェ

鳩山町は、国の地方創生加速化交付金や地方創生推進交付金の採択を受け、鳩山ニュータウン地域のアクティブ化を目的とした「鳩山町生涯活躍のまち構想推進による住宅団地アクティブ化事業」を進めています。

鳩山町コミュニティ・マルシェは、この住宅団地アクティブ化事業を具体的に展開するため、空き店舗を町が取得して整備した複合的拠点施設です。

7月1日(土)に、このマルシェのオープンイベント(指定管理者のプレゼンテーションなど)が行われ、その後、マルシェを会場に「ニュータウンふくしプラザ第5回七夕&オープンカフェ」が開催されました。

マルシェを会場に ニュータウンふくしプラザ 第5回七夕&オープンカフェを開催



▲ミニコンサートがイベントに花を添えました



▲オープンカフェで飲み物が振る舞われました

七夕&オープンカフェ 鳩山の暑い夏を乗り越える 風物詩の一つに

ふくしプラザイベント実行委員会により開催された「七夕&オープンカフェ」。会場となった「鳩山町コミュニティ・マルシェ」は、皆さんの願いを書いた短冊が飾られ、会場が七夕の風情に彩られました。会場を訪れた約400人の皆さんは、ミニコンサートやキッズコーナー、模擬店、カフェなどを思い思いに楽しみました。今年も、若い人の参加も多く、会場では多世代にわたる交流が多くみられました。この「七夕&オープンカフェ」に先

マルシェの管理運営 町民参加型で、自立性が高く、魅力的に

町では、コミュニティ・マルシェのオープンにあたり、「町民参加型で、自立性が高く、魅力的な管理運営」を達成できる法人または団体を、指定管理者として公募しました。(株)アール・エフ・エーは、この公募手続きを経て選定されました。

住宅団地のアクティブ化 「働く・支える・移住する」好循環を

コミュニティ・マルシェは7月1日にオープンしました。しかし、住宅団地アクティブ化の中核を担う「まちおこしカフェ」は、カフェ運営者と、特産品などの出品者を募集中です。また、「移住推進センター」も、空

き家バンク事業について、指定管理者を交えて具体的な制度内容を検討している段階です。「働く・支える・移住する」をコンセプトとして、マルシェが本格的に動き出すのは秋頃となります。皆様のご支援をお願いいたします。

“コミュニティ・マルシェ”のご案内

働く

■まちおこしカフェ

地域特産品(※)を有料で販売する施設です(無料の休憩スペースではありません)。カフェの運営は、カフェ運営者・出品者・指定管理者が行います。

※町(地域振興に関する連携協定等を締結した自治体を含む)の産物を主原料とした商品または町内の事業所で製造した加工品をいいます。

■シェア・オフィス

起業や学習を支援する施設です。全部で8室あり、1か月間の継続利用も可能です。(要利用予約。有料)

■マルシェ研修室

まちおこしカフェやシェア・オフィスとの連携を想定した多目的研修室です。(要利用予約。有料)

支える

■ニュータウンふくしプラザ

地域の集いの場、ボランティア活動支援などに関することを行います。原則どなたでも自由に、無料でご利用いただけます。(キッズコーナー有)

問合せ：☎ 290-5469 (祝日、年末年始を除く。午前10時~午後5時)

移住する

■移住推進センター

空き家バンクシステムを運用しながら、移住推進に関する業務を行います。また、指定管理者が常駐し、各施設の貸出等を行うマルシェの総合窓口です。

問合せ：鳩山町コミュニティ・マルシェ(松ヶ丘1-2-4)☎ 272-7528 (祝日、年末年始を除く。午前9時~午後5時)

※マルシェの情報は、フェイスブック・ツイッターでも発信中!